

「大分川ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

日 時： 平成24年3月30日（金）10:00～12:00

場 所： 大分市 野津原市民センター（多目的ホール）

発表者： 意見発表者

○住民（1番）

私は、野津原地区自治連絡協議会の●●という者であります。野津原地区の住民を代表して、少しばかり意見を述べたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

先日の15日に開催されました第4回大分川ダム建設事業の検証の場におきまして、治水・利水の両面において、大分川ダム建設が最も有利とする総合評価案を、大分県をはじめとする関係地方公共団体が満場一致で支持されたことに対して、まず私どもほっとしているところです。妥当な評価であったと思っております。

しかし、あまりにもこの検証に時間がかかりすぎたのではないかと感じており、国は地元住民に対して、何だと思っているのか正直憤りを隠せません。そもそもこの大分川ダム建設事業は国の事業として40年の長きに渡り、当時の野津原町と地元関係住民の協力のもと、共に進めてきた事業で、特に地権者のみなさんの苦渋の選択の中でこの事業を受け入れたということを国は承知しているのかということ。仮に承知しているとしたら、地元住民に対して与えた不安を払拭する日々において、こんなに時間をかけることなくスピード感を持って、この検証に望むという姿勢があっても良かったのではないかと感じております。

また、このダム事業はこれまでも長年に渡り、住民合意のもとに積み上げた事業にもかかわらず、検証にいった途端に情報提供せずに地元住民への説明が全くなされていないことが、地元軽視そのものであります。実際、この評価を行うにあたり、2年もかかったということについては多くの時間が無駄になったのではないのでしょうか。ただ、地元の方に混乱させただけではないのか、こんな思いを強くしているところでもあります。本当に腹立たしい思いをしております。

なお、そう申し上げても、我々といたしますと、これまでも願い続けてきたダム案がもっとも有利であるという評価結果となったわけですから、この結果を踏まえ、一刻も早く本体工事に着手して頂きたいと強く願っております。特に、これまで大変苦勞した地権者は、ダムの早期完成を望んでいますし、我々、地元住民も同様に思っております。

特に、これまでダム工事に携わってきた地権者を含め地元住民も高齢になってまいりました。

前回の検討の場で、このダム建設事業は本体工事着工後、完成するまでには8年の月日を要するという見込みとの説明を聞いております。

仮に、平成24年度から本体工事が可能となった場合でも、完成予定年度は平成31年度と見込まれる。当初の完成予定である平成29年度を超えることになり、この2年間にもわたる検証結果分が遅れることが予想されます。

これまで、長年にわたって築きあげてきた本事業に対する地元住民と、信頼関係を損なわないためにも、先程申し上げましたが、直ちに本体工事に着手して頂くことと、基本計

画どおりに29年の完成に向けて取り組みを行うことについて、最大限努力して頂きますよう強くお願いを致します。

少しばかり苦言を言わせてもらいましたが、私どもの野津原地区の住民は、この大分川ダムを早期完成を願っております。

この気持ちを少しでもご理解頂きたいと思い、本日は、意見を述べさせて頂きました。以上で終わりますので、よろしくお願い致します。

○住民（2番）

私は、ダム建設予定地の上流の上詰自治区の●●と申します。

そういう関係で、この大分川ダム事業には、長年携わって参りました。

その結果、昨年の1月、第1回の検討の場から本年1月の第4回の検討の場まで、4回検討の場の傍聴をさせて頂きました

第1回、2回の検討の場等々では大分川ダムはどうなるのだろうか、我々は長年建設事業に取り組んできたそのものが、すらごときするのではないかという非常に心配の点がありました。

しかし、検討の場を重ねて頂いた結果、本年の1月の第4回の検討の場で、あらゆる代替案を検討したけれども、最終的には大分川ダム案が最も有利なんだという報告を聞きまして、ダム建設に若干の明るさを感じたものでございます。私どもは、一日でも早くこの大分川ダムを造っていただくよう、長年願ってきた住民である、それを待ち望んでおるものでございます。関係各省庁と申しましょうか、職員の方々には、大変お骨おりの多いこととは思いますが、この検討の場を十分踏まえて一日でも早く大分川ダム本体工事着工して頂くよう、強くお願い申し上げまして私の意見とさせて頂きます。

どうぞよろしくお願い致します。

○住民（3番）

●●と申します。私も旧野津原町の一番上と申しますか今市の出身でございます。それで、大分川ダム問題の検証を、ここ1年、2年かけてやってまいったわけでありまして、治水や利水あるいは流水の関係、こういった面につきましても、有識者の皆さんから多方面に検証を加えた結果が、大分川ダム建設が最も有利だという方向性については、私も賛意を示すところであります。

特に、大分川ダムはこういった治水や利水、そういった面だけではなく、多目的な機能を有するということが1点目としてあるのではなかろうかなと思うんです。

大分市内の中心部からわずか車で30分から40分かかれば到着するわけでありまして、ここは市民の観光資源として、あるいは、総合的な娯楽の場としての機能というものが、あるのではないかなと、そう思っております。

そういう側面と、2点目としては、それを1つの核にしながら、地域振興、産業振興が興ってくるということが言えるのではないかなと思うんです。

私が育った今市は、はっきり申しまして、大分市内でも有数の過疎地域でありまして、ほとんどの家が高齢者世帯か、あるいは、独居の老人の人達であります。私の家も、つい先だって親父が亡くなりましたが91歳、おふくろは89歳というような典型的な年齢構成の

中にあるわけでありまして、今地域でどういうふうに地域再生の道を求めていこうかというところで、まち興しをやっておりますけど、方向性ははっきり言って見えません。この1つの光といいますか活路は、大分川ダム建設を核として、そして地域振興をどう図っていくかという事にかかっているのではないかなと、そう思います。

3点目は、オール大分、大分川ダム建設推進といいますか、私も今、大分市議会に籍を置いておりますが、議会で当初は、一部の会派といいますか、政党が、わざわざ大分川ダムを建設することはしなくても、大野川から水を引けばいいんじゃないかという意見が多々あったんでありますけども、最終的には全会一致のような感じで建設問題には一定の方向性を見出ししている所であります。

一昨年、熊本の球磨川流域の川辺川ダムですか、あそこを私も視察に行っていました。上流域から中流域下流域全てに反対運動が起こっておりまして関係自治体の首長さんまで反対を表明するような、そういう反対運動が脈々となされておりますが、この大分に関しては多少の議論があったとしても、小異を残して大同に着きながら全面的に大分川ダム建設の早期実現をめざしておると、私は確信をしているわけであります。

この作業が進み、全国に先陣を切って、大分川ダム建設が達成できるよう、関係者の皆さんにもご尽力をお願い致しまして、意見といたします。

○住民（4番）

私は、建設中の大分川ダムの直下流にあります堰堤から1,000m以内にあります原村地区の住民です。

私も30数年前から、この大分川ダムの計画立案から地元交渉の中で携わってきまして、現在、私は原村の自治委員をしておりますが、もう一方で原村ダム対策委員会の委員長をしております。

この中で、20年ぐらい前からこのダムを地域の活性化の一つの起爆剤としたいということから推進をする立場として、原村ダム対策委員会、原村地区もあげて、このダム建設に協力する立場の者です。そういった中で、2年前ですか、政府の見直し方針によりまして、このダムが本体工事を直前にしてストップになった。

我々としては、地域活性化の、先ほど言いましたように、目玉として位置づけて、完成、ダム堰堤建設中、或いは完成後、先ほど●●も言われましたように、非常に観光資源の少ない野津原にあって、原村そして野津原地域の観光の目玉としても、期待できるということがございます。

それと私どもの地域の中に、里の駅という施設がありますが、この施設も野津原町から譲り受けて、ダムを希望にですね、うちの地区が自主運営をしてきました。なかなかダムが進まない中で、交通量も増えません。そういった中の施設も今、休業状態です。なんとか交通量が増えて、そういう地元の経済効果も期待をしたいという中で、ダムストップしてもうすでに2年経過をしております。

私どもは憂慮しながらも、先の見直し検討の場に傍聴として参加させて頂きました。先ほどから出ておりますように、その結果が、いずれにしても目的、3つ4つある目的を達成するためには、大分川ダムの建設以外にないという結論が出たわけです。私どもとしては、強く当然な結果だと受け止めておりますけれども、これから先、それではいつこれが実現

するのかと、まだまだ中央の有識者の意見聴取とか、本省の中での検討もありましょう。そういったもので、ずるずると時間が過ぎますと、来年度、というのは25年度ですが、概算要求、いわゆる骨格予算を要求する夏場ちょっと前だと思うんですけども、それまでにピシッとした結論が出なければ、また、さらに25年度も本体工事にかかれないうような事態が来るやに心配しております。

そういったことで結論が、大分川ダム以外にないという結論が出たわけですから、速やかに、いわゆる詰めの事務手続きをスピード上げて取り組んで頂きたい。

そして、最終決定を少なくとも5月末、6月頭ぐらいには本省が出せるような体制に現場の皆さんも努力して頂いて、九地建も含めて、早くゴーが出せるように手続きをして頂きたいと思っております。

本体は、できると私は確信しておりますけれども、2007年から2009年ですかね、大洪水がありまして、これもダムの周辺では樹木も伐採して非常に開発をして、進んでおりまして、いわゆる鉄砲水が来るわけです。雨量も100年ない、経験のないぐらいの雨量が集中的にダム上流の方で降ってますね。原村も今まで浸かったことのない道路が冠水しました。これをほっといたら大変なことになると、ダムをやめたらどうするのかという、そういう心配をしてきたわけです。

それと、ダム工事に関係する私ども水路が、ダム堰堤を経過して、うちの地区に関係する水路が、2本通っております。今、水没地域の水路をなくしてですね、ポンプアップしております。これは中途半端なかたちで、いつまでも残されても困ります。ちゃんとした計画に基づいた周辺の整備を早くしてもらうためにも、本体の着工を強く望むところであります。

そういった意味で先程申しました、本省が早く結論を出せるような動きを速やかにして、一刻でも早く本体工事にかかれるように、是非強くお願いをいたします。

以上です。

○住民（5番）

●●でございます。

今までお話をお聞きしたところ、その趣旨は、同一なようなものが多いわけでありまして。

私はダムの早期建設を望むものでございますし、やはり早くできて、地域振興というのを非常に期待しているものでございますが、今回の東北地震等によりまして、国の予算も大変というようなことでございますので、ダム建設という特別な事業でございますが、その予算が早期に確保ができるのであろうかということ、まず心配しております。

それと今回のダムはですね、ダムからダム直下の、先ほどおっしゃっていたお話もありましたが、直下非常に近い所に住居が非常に多いというようなことで、今回東北地震がございまして、あそこ辺にダムの多いところか、お聞きすると、あの辺は非常に水に便利な所でございますので、ダムはあんまりないのではないかと聞きましたが、具体的にわかりませんが、ダムが、もしあって、地震によるダムの被害、その後のダムの状況等がどうなっておるのかということは、一通りニュース等ではございませんので、ダムのそういう該当はないのではないのかと思っておりますが、そういうことも一つ、お知らせを願えればと思っております。

そういうことから、日本のダム建設は、世界一と言ってもいいくらいに、ダムの建設の技量や技術というものが、大変な価値があるものでございます。そういった意味から、いろいろな支援の状況、災害等によって、ダムの決壊とか、ダムの傷みとかは無いと思うのですが、やはりそういう今回のダムの位置から考えまして、やはり安全ないわゆるダムを造ることが、まず大事ではないか。

そして、そのダムの周辺の方にも、やはり安心してダム利用と、ダムのお陰に、立ち入ることができるのではないかと考えておりますので、

まず、早期に厳しい中ではありますが予算確保して、ダムの早期着工していただく。そして、今回の東北地震によるダムの関係の状況がどうかということも1つお聞ききたい。

そして、建設についてはやはり安全なダムを造っていただくということをお願いしまして簡単ではございますが、私の意見と致します。

○住民（6番）

私が最後になりました。

見えますと、傍聴者の方約11名、何かしら寂しい気分が致します。この大分川ダムに關しましては40年の歴史があります。先人の方の、たゆまざる努力によって、今この現在があると思えますし、このように進捗しているであろうかと思っております。

けれども時代の変遷か、時代の変わり様によりまして、あらゆる日本のダム建設の議論の中で政府の方針と致しまして、とりやめるダムもかなり出来ております。

この大分川ダムも本当に造って、本当に住民のためになるのか。あるいはまた、新しい災害を起こすのかということ両面から考えてみますと、我々は、元議員をしていたのでありますが、この議題にはやはり地元住民のために、少しでも住民のための被害にならないようにと、努力をし、そして推進をしてきた立場であります。

このダムも、何年経ってもなかなか前に進捗していけない。それをこの時期になりましたですね、さらに住民の意見を聞くと、今頃になって住民の意見を聞くと、元々あれだけ反対をしてきたダム建設事業を強引に進めてきた政府の責任を問いたいわけでありまして。

けれども、それを今頃になって住民の声を聞きながら、そして意見集約をするという考え方に変わってきておるわけでありまして。

何故か、いわゆる、それは予算の関係もあるでしょう。けれども、実際に造ったダム対効果があるのかないのかという検証もしないままに、ダム建設事業を進めてきた責任もあるうかと思えます。そういう責任を取れというわけでは無いのでありますが、先ほどまでの5人の方のご意見と、私の意見は違いますが、こういうことであるのであればですね、ダムをつくってその効果を出す、この効果は当然、社会的環境、あるいは治水対策等ありましようけども、決して、そのダムがなければ、なくても今のような平和な野津原が築かれているわけでありまして。

ダムをつくれれば観光事業に密着するとか、推進できるとかという話もありましようけども、あの程度のダムでは、そう観光客も集まってくるとも考えられませんが、もし万が一、地震大国この日本は、大地震がいつ起こるともかぎりません。その時に、地震があつて、もしダムが決壊すれば、この野津原三区は、もう今の東北地震以上な被害を被ることは目にみえて明らかです。洪水の心配があるのであれば、地震の時のダム決壊の心配は、その

数百倍に及ぶんじゃないかと思うし、今の大分川ダムの下詰を、例え堰って、洪水調節をいたしましても、それ以外の川があるでしょう、朝海からくる川、それから竹の内の方からくる川、吉熊の川、ほとんど洪水こないんですわ、そういう川の水量から計算した場合に、大雨が降った場合、1時間に200mm、300mm、もし降った場合には、あのダムだけでは、到底防げないことは明らかでありますよね。それよりも、地震に対して絶対壊れないという、今のダム建設の技術ではあるかと思いますが、万が一を考えた時にはですね、それ以上の被害が被ろうかと非常に心配するわけであります。

そういうことを考えた時には、今のままの、この野津原の平和を持続した方が、かえって幸せではなかろうかというような感じの中で、このダムが、はっきり申しましても、造らなくてもいいものであればですね、このまま、あの橋さえできれば本体工事には、わたしは必ずしも、いいんじゃないかと思うし、それの方が野津原の平和を持続するんじゃないかと思うわけであります。

ですから、今日も先ほど申しましたように、わずか傍聴人が10人規模しかないということは、それだけ関心がないということでもあります。どうせ造るんであるから、行って聴いても同じじゃないかと、というようなことであろうかと思えます。けれども、声なき声の中には、もうダム造らなくてもいいのという声は相当あるわけであります。けれど、ここに来て発表する勇気もないと思えます。わたしも勇気はないんですが、勇気をふりしぼって、この国土交通省の方に申し上げたい。こういう反対の声、今更、反対やないんですけど、こういう声もあるんだということを、直に必ず伝えて欲しい。

何かの機会でわたし伝えたかったんですが、いい機会でありますので、こう申しあげたわけであります。本当にこのダムが、本当に野津原町のためのなるのか、大分市のためになるのか考えてですね、用水調節もありましようけども、今は、逆に大分市から、逆に水をくみ上げとるんです、こちらの方に。わたしは下詰にできたダムから、直接、この水圧を利用して大分市民に供給するような水道水をつかうのであれば別ですが、逆に、汚れた水をポンプアップして、くみ上げて、そして、この水源に流しているという、こういう関係でありますから、ダムは本当は、必要ないんじゃないかと考え方が、痛切に浮かんできたわけであります。

今後ダムをつくるのであればですね、やはり水道水はダムから直接引いて、大分市に供給すること、ポンプアップしなくてもすむんじゃないかと思うし、そういう別の考え方も常にしてほしいと思えます。

それから、そういうことありますから、声なき声を、わたしはあえてこの場で申し上げたわけありますから、これを十分に参考していただきながら、今後の進め方をしてほしいと思えます。以上です。

○住民（7番）

大変遅くなって参りましたので、受付に遅れて申し訳ありません。●●と申します。

先程から6名の方の発表がありました。実は私、議会に四期、そして最後に野津原町長をさせて頂いた者ですが、行政に関わるように議員としてなりましてから、ずっと野津原町の議会の最大の問題がダム建設という大変大きな行政課題でありました。そのことで、歴代の町長さん議員さんまた、役場の職員、野津原住民全てと言っても過言でないくらい、

ダム問題の進捗に大変苦慮したわけです。

当時、野津原町の振興計画は色々な町づくりの計画を作りましたが、それらの問題は全てダムの進捗状況によってことが成せる、それくらい野津原町の中心的な行政課題であり、そのことがどう進捗するかが野津原町の将来に、また、今日に繋がったと考えています。

当時は、野津原町の振興計画を立てるにしても、全てがダムの進捗に決まると言っても過言ではなかった時代だけに、そのことの推進のために水没者を始め、多く住民が心血を注ぎました。そして、やっと補償基準が妥結して最後のダムの大きな砦が取り除かれて、これから一気にダムが進み野津原町の整備計画が全て整うというような状況になって今日に来ておりますが、その時になって国の方でこう言うダム見直し論が始まったわけですが、我々野津原住民にしてみれば、それこそ苦渋の選択をしながらこのことに取り組んで来たものが水泡のあわとして成りうるような状態に、今なっておりますが、幸いこの2年間の検証の結果ダム建設がもっとも有利だという結論を出ささせていただいて、そのことを私は、これに係わる多くの皆さんに是非理解頂いて、野津原町の地域振興、野津原町を本当に住みよい地域にするためにもこのダム事業が絶対必要だと言うことを強く申し上げたいわけです。

いろんな災害が有りました。

先般も大きな災害があったわけですが私ども野津原地域の下流の住民としては、これまで田んぼが台風の度に水害にあい、土砂が堆積するような大変苦難をさせられたと、受けたと現実であります。

それだけにダム事業が完成することによって、それらの問題も解決でき、これからの子供達にそういう不安な状況がなくせるようなそういうかたちのダム事業にダム建設なるものと私は確信しております。何が何でも、早期の完成をして頂くように強くお願いを申し上げて挨拶に意見にかえます。よろしくお願い致します。